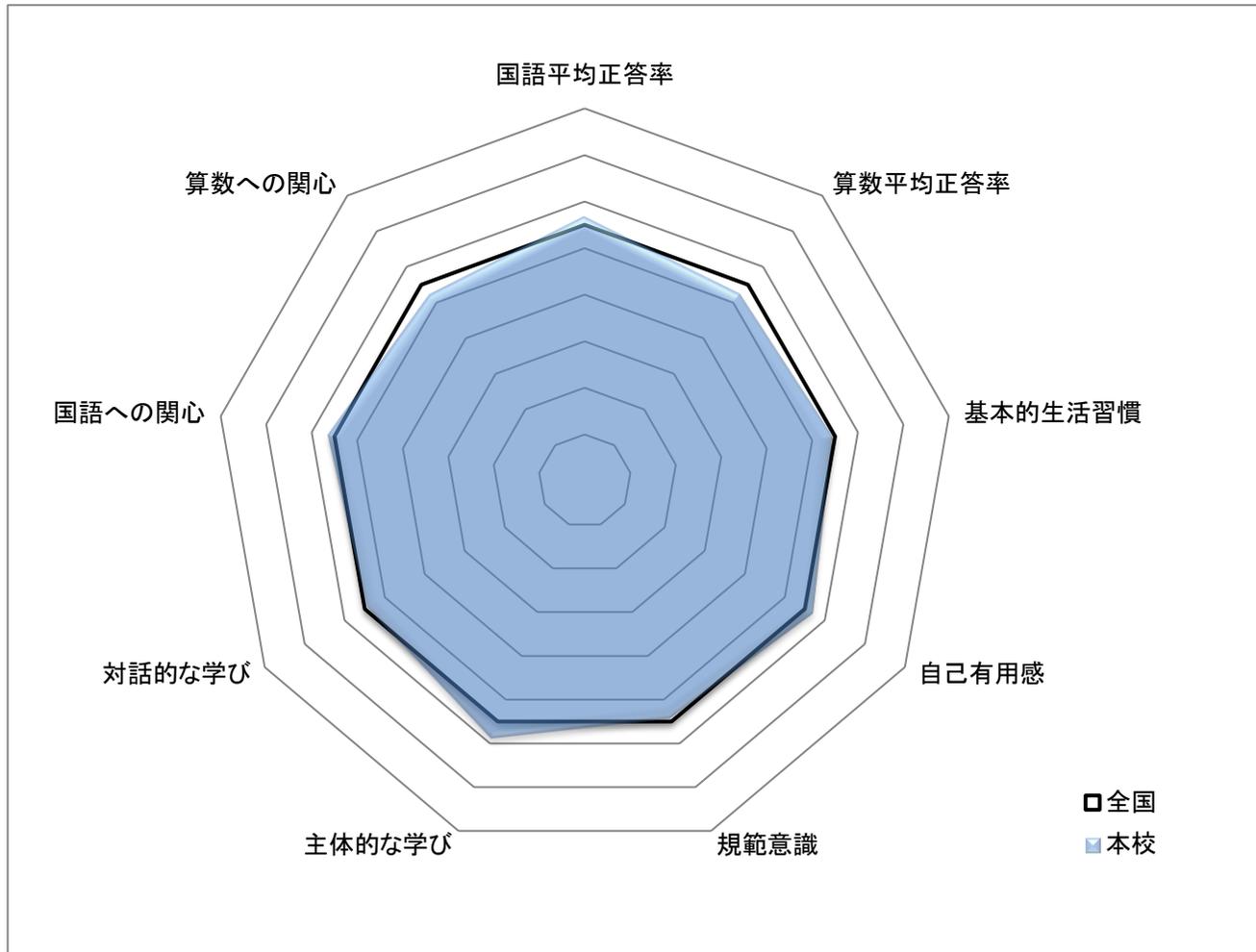


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・国語は、平均正答率が都平均と同値で、平均正答数も全国平均・区平均を上回っている。「思考力・判断力・表現力」は、都平均を1.6ポイント上回っている。どの領域も都平均とほぼ同じだが、「読むこと」において4.5ポイント上回っている等良好である。  
 ・算数は、平均正答率が都より8ポイント低く、平均正答数が9.7問と全体的に低い。「思考・判断・表現」は、都平均に比べ9.8ポイント低い。  
 ・領域別では、「変化と関係」が都平均より11.4ポイント、「図形」が10.3ポイント低い。

《授業改善のポイント》

【授業改善に向けて】  
 ・日常的に読書に親しむことを継続させながら、授業の中で自分の考えを形成・表現したり、友達と考えを交流したりする言語活動を重視していく。  
 ・ICTを活用しながら、答えを出すだけでなく解き方や考え方を説明するなどの言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現し、算数B層とC層の基礎学力向上を図る。  
 ・算数で習熟度別少人数指導を充実させ、特につまづきやすい単元や領域についてミライシードや東京ベーシックドリルを活用し、個別最適な学びの充実を図る。  
 ・全国学力学習状況調査の結果や江戸川区学力定着度調査の結果を分析し、指導に生かす。

《チャートの特徴》

・「主体的な学び」や「自己有用感」において全国平均を上回っている。昨年度から校内研究で自己肯定感を高め、学力向上につなげる取組をしている成果だと考えられる。  
 ・国語への関心及び平均正答率は比較的高い。昼休みの読書タイムや読む聞かせ、地域の図書館との連携等、日常的に読書に親しんでいる成果だと考えられる。  
 ・算数への関心及び平均正答率は低い。昨年度と比較しても4ポイント下降した。日常生活の中で、算数的な活動に興味をもつことができるよう、環境や教材教具を整え、ICTをより活用し個別最適な学びを充実させる必要がある。

《家庭・地域への働きかけ》

・国語に関して、毎日漢字と音読の宿題を出し、家庭学習の習慣を付けるよう協力を得ている。  
 ・算数で東京ベーシックドリルの学習カルテ（学びのポートフォリオ）を家庭と共有して取り組ませたり、学習用タブレットのミライシードを活用したりして、既習事項の定着を徹底している。